

市立秋田総合病院新病院改築実施設計について

1 実施設計スケジュール（平成30年6月～31年8月（15ヶ月間））

(1) 病院本体（医療棟、医療支援棟）

平成30年6月～30年7月 基本設計内容の検証、概算工事費の精査
平成30年8月～30年10月 実施設計図（一般図¹）の作成
平成30年10月～31年3月 実施設計図（詳細図²）の作成
平成31年4月～31年8月 建設工事費の積算・調整

(2) 立体駐車場

平成30年6月～30年10月 実施設計図の作成
平成30年11月～30年12月 建設工事費の積算・調整

2 基本設計内容の検証、反映

より利便性の高い平面計画や合理的な構造方式等となるよう、基本設計内容を検証し、平面構成および断面構成等の実施設計への反映を行った。

今後、これをもとに実施設計一般図を確定させ、詳細図の作成を行う。

(1) 医療棟1階フロアの諸室配置の取りやめ（サービス関係を除く）

最上階へのワンフロアの増設（12階建て ⇒ 13階建て）

- ア サービス関係やお見送り、霊安室等の必要スペースの確保（1階）
- イ 外来の位置変更（1・2階 ⇒ 2・3階、受付・診察・会計動線の明確化）
- ウ 検体検査・手術室・機械室等の位置変更（3・4・5階 ⇒ 4・5・6階）
（手術室の整形化、手術室・ICU（集中治療室）・ME（臨床工学室）の隣接化等）
- エ 病棟の位置変更（6～12階 ⇒ 7～13階）
- オ 薬剤部門の位置変更（3階 ⇒ 2階、外来・救急部門との同フロア化）

(2) 支援棟の5階フロアの取りやめ（5階建て ⇒ 4階建て）、形状の整形化

- ア 幹部諸室と医局の同フロア化による情報共有や意思疎通の迅速化

(3) 諸室の共用化やオープン化、動線効率等の工夫による規模のコンパクト化

- ア 医療棟：約28,000㎡ ⇒ 26,990㎡
- イ 医療支援棟：約4,000㎡ ⇒ 3,450㎡
- 合計：約32,000㎡ ⇒ 30,440㎡

(4) 構造方式の検証、反映

- ア 医療棟の杭基礎の取りやめ、掘削土量の削減、土留め工事量の軽減
- イ 適切な柱配置や梁架構、柱・梁のRC造化および一部工場製品化

(5) 機械室等の検証、反映

- ア 必要スペースの確保と合理的な配置によるライフサイクルコストの縮減

1 一般図：縮尺1/400程度で表した配置図、平面図、立面図、断面図等の図面

2 詳細図：縮尺1/50など、一般図よりも細かく表した工事発注用の詳細な図面

3 概算事業費の精査

実施設計に基づく設計金額が予算とかい離し、工事発注段階での事業の停滞や手戻りを防ぐため、基本設計に基づく概算工事費の精査を行った。

機能・仕様および経費算定の精査を行うとともに、基本設計内容を検証し、実施設計へ反映させたことにより、約2.6億円の工事費の縮減を図った。

概算事業費は、基本構想時に計上していなかった、調査費、工事負担金、補償費、事務費等の約2.5億円を加えて約186.5億円となり、約0.1億円の減額となった。

[概算事業費]

・ 建設工事費（本体、立体駐車場、解体・外構）	：	約161.8億円	（△2.6億円）
・ 医療機器・什器・備品等	：	約14.7億円	（±0億円）
・ 設計委託費（基本・実施設計、工事監理）	：	約5.7億円	（±0億円）
・ 医療情報システム費	：	約1.5億円	（±0億円）
・ 移転費（患者移送費）	：	約0.3億円	（±0億円）
・ その他（調査費、負担金、補償費等）	：	約2.5億円	（+2.5億円）
		<u>計 約186.5億円</u>	（△0.1億円）

*（ ）内は、基本構想時に算出した概算額との比較

*川元松丘街区公園を活用するための整備経費については、別途、計上予定

